

石岡市議会 議長賞

「あいさつで温かな社会に」

東小学校 六年 鶴巻 彩子 (つるまき あやこ)

私は、空手を習っています。空手の形の試合では、形を行う前と行った後に必ず礼をして、あいさつをします。礼を忘れると、形がいくら上手でも、失格になってしまいます。

組手の試合でも、お互い向き合って礼をして、あいさつをします。コートに入って、コートから出るまで四回も礼をします。練習試合や遠征に行っても、他のチームや会のコーチや監督にあいさつをします。空手では、あいさつはとても大切な物なのです。

しかし、私は空手を習い始めたばかりのころは「なんで、そんなにあいさつをするのだろうか。あいさつは一回でいいのに、なんで三回も四回もあいさつをする必要があるのだろうか。」と不思議に思っていました。前は、あいさつはあまり大切ではないと思っ

ていたのです。しかし、今ではあいさつはとても大切なものだと思うようになってきました。そして、温かな社会作りのためにも、あいさつは必要なことだと思います。その理由は、あいさつをした人もあいさつをされた人もたった一言で心が温かくなったり、温かくなれたりするからです。

私は、いつも学校の先生や地域の人や友達にあいさつをします。毎朝、学校の先生や地域や友達に会ったら「おはようございます。」と言います。お昼頃に先生に会えば「こんにちわ。」と言います。帰り際に先生に会えば「さようなら。」と言います。他にも、友達が何かしてくれたら「ありがとう。」と言うし、何か悪いことしてしまったら「ごめんなさい。」と言います。どのあいさつをしても、必ず心が温かくなれ

ます。そして、ふり返ってみると、あいさつは、日常でたくさん出てきました。あいさつは、日常でたくさん出てくるほど大切なものなのです。

その後、私はあいさつをしない一日だったら、どのようになり、どのように感じるだろうかと想像してみました。朝、学校の先生や地域の人や友達に会っても何も言いません。お昼頃や帰り際に会っても、何も言いません。友達がなにかしてくれても、何も言いません。何か悪いことをしてしまっても、何も言いません。想像しているだけなのに、そわそわしてしまって、落ち着きませんでした。

私は、学校で友達にあいさつをしても、返事が返ってこない日がありました。せっかくあいさつをしたのに返事が返ってこなくて、心が暗く沈んでし

まいりました。あいさつをしないということ
は、心は少しも温かくならないの
です。そして、あいさつをして、温か
な社会作りの目標から遠ざかってし
まうのです。

私は、あいさつは心を温かくしてく
れるものだと思います。そのあい
さつを、空手の形の試合の時の礼と同
じように大切に感じる人が増えてほ
しいと思っています。そして、大切だ
と思う人が増えて、この世界があいさ
つをする人であふれてほしいと思っ
ています。あいさつをする人が増えて、
あいさつで温かな社会作りの目標達
成に、一歩近づいていきます。

